



高等学校	国語	1～3年
------	----	------

「自分の考えの根拠を明確にして書く力」を養う

「現代の国語」の授業づくり

—思考ツールとピア・カンファレンスを用いた学習活動を通して—

「書くこと」の授業の第一歩として

亀の甲羅型思考ツールとピア・カンファレンスの2つの手立てを用いて、意見文作成の授業を行う。

・亀の甲羅型思考ツールとは

意見文を書く前に自分の考えを構成メモとして可視化できるツール。

①主張②理由③反論④反論への説明（反駁）をそれぞれ書き込んでいくことで説得力のある意見文になる要素を取り込めるようになっている。

・ピア・カンファレンスとは

学習者同士で指摘し、助言し合う活動のこと。

亀の甲羅型思考ツールとチェックシートを基に、意見文の一貫性や客観性について指摘、助言し合う活動を行うことでより説得力のある意見文を作成できる仕掛けになっている。

時	学習の流れ（実践例）	意図していること
1	<ul style="list-style-type: none"> 意見文を書く。（Google ドキュメント） 説得力のある意見文に必要な要素を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 書き直しやすいようにGoogleドキュメントを用いる。 意見文にどんな要素があればよいか、気付かせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 説得力のある意見文に必要な要素を全体で共有する。 1時間目に書いた意見文の構成要素を見直す。 思考ツールで自分の意見を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間目に考えたことを共有し、全員の共通理解とする。 自分の意見文を思考ツールにあてはめ、自分の意見文に足りない要素を自覚させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> グループで思考ツールを基にした意見交換をする。（ピア・カンファレンス） 意見文の内容に合わせてグループでもらった意見を取捨選択する。 意見文を書き直す。（Google ドキュメント） 	<ul style="list-style-type: none"> 埋められなかった空欄や主張に合わない根拠、理由に合わない反論、反論への説明に対するアイデアなどの意見をもらう。 複数の立場からの意見をもらうため、ペアではなくグループとした。
4	<ul style="list-style-type: none"> ペアでチェックシートを基に意見文を読み合い、指摘し助言し合う。（ピア・カンファレンス） 意見文の内容に合わせてペアからもらった意見を取捨選択する。 意見文を書き直す。（Google ドキュメント） 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく伝わっているかを確かめるために、異なるテーマ同士でペアを組み、チェックし合い、意見、指摘、助言し合う。 指摘するときの文言を指定したり、指摘の練習をしたりすることも必要である。
5	<ul style="list-style-type: none"> 1～4時間目までの学習内容の確認をする。 新たなテーマで意見文を書く。（手書き） 単元の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 入試などでは手書きで書かせるものが多いため、手書きを用いたがそれは各学校の実態に合わせた方がいい。

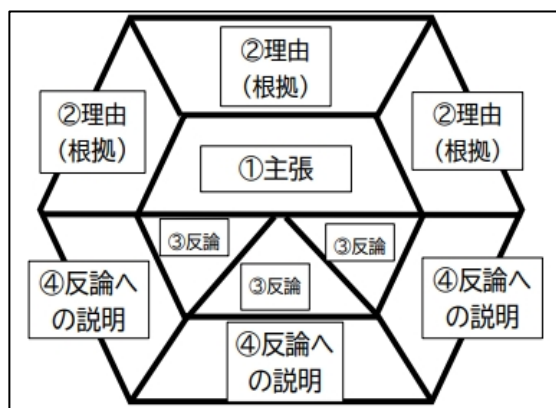
亀の甲羅型思考ツールは、個人で意見文に必要な要素を取り入れ、見直せる！

亀の甲羅型思考ツールの使い方

- 1、①～④までの空欄に自分の意見を基に書き込んでいく。
- 2、空欄部分を自分で自覚し、埋められるよう一度考える時間をとる。
- 3、①～④の中で①と②を見比べ、一貫性があるか、論理の飛躍はないか、①の説得力が増す説明になっているか確認する。なっていない場合、書き直しする時間をとる。（次の時間にピア・カンファレンスを取り入れるのならば、2で埋めきれなかった空欄や3で訂正できなかったものへの意見、指摘、助言をもらう機会を持てる。）

※意見文を書く以外にも、ディベートやスピーチなどでも転用可能！

（①～④の要素を変更する必要がある場合もある。）



ピア・カンファレンスは、複数人との対話を通して自分の課題を捉え直せる！

ピア・カンファレンスの授業での行い方

- 1、学習者同士のグループ、ペアなどの少人数単位で行う。
- 2、意見交換、指摘、助言を行う際の基準を同一にする。
（どのような基準で見合うのか、評価規準を一定にする）
- 3、同一の評価規準で意見、指摘、助言をし合う。
※意見や指摘、助言が出にくいようであれば、具体例をあげたり、指摘する練習なども行ったりするとよい。
- 4、意見、指摘、助言をもらったものをそのままにせず、自分の課題として捉え直し、どのように改善するかを考える。